

熊本大学広報誌

熊大通信

vol. 66
2017 AUTUMN



特集Ⅰ

たどる。

フィールドワークからはじまる研究

特集Ⅱ

レポート 熊大と熊本地震 vol.5

教訓を発信する発生研の震災対策

学生企画

学祭に込められた想いを探れ! 熊本大学 学祭をたどる



真面目に考へよ
 誠実に語れ 摯実に行へ
 汝の現今に播く種は
 やがて汝の収むべき
 未来となって現はるべし

—— 夏目漱石

熊大で生きる君たちへ 五高記念館内の復原教室

明治29(1896)年に第五高等学校に赴任した夏目漱石は、英語教師として、4年3カ月勤務しました。授業中は厳格に生徒に接していましたが、普段は面倒見の良い教師として生徒に慕われ、運動会や修学旅行、江津湖のボートレースなど、学内行事にも積極的に参加しました。

その後、明治33(1900)年に、文部省より英国留学を命じられ、ロンドンへ赴きます。当時の日記には、西欧と日本の文明についての比較が多くつづられています。翌年3月21日の日記には「未来は如何あるべきか、自ら得意になる勿れ、自ら棄る勿れ黙々として牛の如くせよ汝々として鶏の如くせよ、内を虚にして大呼する勿れ、真面目に考へよ 誠実に語れ 摯実に行へ 汝の現今に播く種はやがて汝の収むべき未来となって現はるべし」と記述されています。

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ たどる。
フィールドワークからはじまる研究
- 11 研究室探訪 寝食を忘れて数学に没頭する。
そんな経験を自信とプライドに
大学院先端科学研究部数学分野
山田 裕史 教授
- 13 特集Ⅱ リポート 熊大と熊本地震 Vol.5
教訓を発信する発生研の震災対策
- 15 学生企画 学祭に込められた想いを探れ!
熊本大学 学祭をたどる
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙 / 【原画】松永 拓己 / 教育学部 准教授
 特集Ⅰで紹介した研究者およびそのフィールドワークイメージ

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.66

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】国立大学法人熊本大学
 〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
 Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007
 sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】熊大通信編集委員会
 大日方信春 / 委員長 大学院人文社会科学研究所(法学系)
 茂木 俊伸 / 大学院人文社会科学研究所(文学系)
 松永 拓己 / 教育学部
 松永詩乃美 / 大学院人文社会科学研究所(法学系)
 木村 弘信 / 大学院先端科学研究部(理学系)
 川島扶美子 / 大学院先端科学研究部(工学系)
 永田まなみ / 大学院生命科学研究部(保健学系)
 首藤 剛 / 大学院生命科学研究部(薬学系)
 田中 尚人 / 熊本創生推進機構
 後藤 正三 / マーケティング推進部広報戦略室

【制作】株式会社 談

特集 I

たどる。

フィールドワークからはじまる研究

見て、聞いて、触れて……
現場だからこそわかる、
新しい何かを求めて。

さまざまな研究方法の中で、研究対象になっ
ている場所を実際に訪れ、人や場所、地域を直接
観察したり、聞き取り調査をしたりするものが
「フィールドワーク」です。現場に行かなけれ
ばわからないもの、見えないものも多く、フィー
ルドワークから生まれた発見やアイデアから新
たな研究成果が生まれることも多くあります。
取り組みやすい、しかし、奥が深い。そんな
フィールドワークを活用した、熊本大学の研究
をご紹介します。



大学院
人文社会科学部
(文学系)

よねじま まゆこ
米島 万有子 准教授



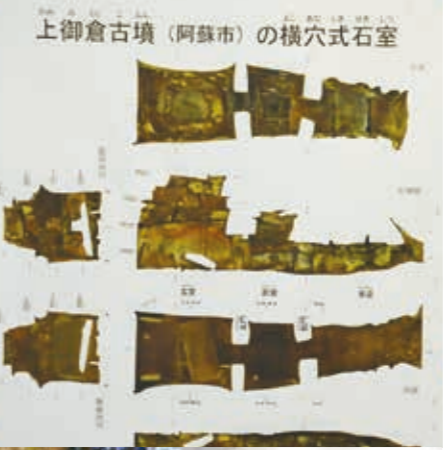
大学院
人文社会科学部
(文学系)

すぎい たけし
杉井 健 准教授



教育学部

はるた なおき
春田 直紀 教授



刺されれば不愉快だけでなく、
深刻な感染症を
媒介することもある「蚊」。
近年では海外からも運ばれてきます。
身近なのに、意外に
生態が知られていない生物です。
米島万有子准教授は、
そんな「蚊」を
フィールドワークで追いつけます。

実は、わからない ことも多い蚊

蝉の音が降り注ぐ8月のある日、熊本県上益城郡益城町の神社の境内に集まったのは、虫取り網を持った大人たち。その一人が米島万有子准教授です。国立感染症研究所と、害虫駆除の民間企業などで組織された熊本県ベストコントロール協会のメンバーとともに、水前寺公園と益城町をフィールドに蚊の発生や分布の調査を行っています。神社では、灯籠が倒れたあとの水たまりや、防水用のブルーシートの水たまりが蚊の発生源。米島准教授らは8分間と

いう決められた時間、網を振り続け、どんな種類の蚊が何頭捕獲されるかを調べます。ブルーシートは減ったのに、蚊はまだ結構いますね。水がたまった古タイヤなど、別の発生源があるのかも」。捕獲された蚊はビンに入れて瞬間凍結させ、研究室で種類と数を正確に把握します。

「蚊はどこにでもいて生態も研究されていますが、わからないことは多いんです。飛行距離もおおよそしかわかっていないし、さらに、航空機や貨物船などに乗ってくるなど蚊の飛行能力以外のものがかかわるので、実験などで明らかにできないことも多いのが現状です」。身近で、深刻な感染症にもかかわる生物ながら、私たちが蚊についてよく知らないことに改めて気づかされました。

フィールドワークは 地道な積み重ね

高校生の頃、東海豪雨に遭い、自宅が床下浸水をしたこ



1 ブルーシートのくぼみは蚊の発生源となりやすい場所。そのため、震災後は蚊が大量発生していた
2 収集した蚊は凍結させて種類などを調べる
3 人が網をふって蚊を収集する人網法
4 昼と夜で活動する蚊は異なるため、夜の蚊を採集するトラップも設置

とで水害の研究に興味を持ちました。浸水後の消毒がなかったことが気になり、興味の対象が感染症の発生に。大学の担当教授が紹介してくれたのが、感染症を媒介する蚊の研究者でした。その方と蚊の調査のフィールドワークに参加したことがきっかけで、蚊と感染症の関係を研究する道に入ったのです。

「子どもの頃から虫を取ったり、興味のあるものは自分で調べる子どもでした」と米島准教授。研究者になるには相応の資質が必要ですが、「フィールドワークは、経験を積み重ねていけます。最初はゼロでも、積み重ね方なので徐々にデータも技術

も蓄積されます。私は地道にコツコツとやるのが得意で、この道を選びました」。研究対象も、「自分とは違う世界や文化を知りたいと国内の他府県や海外に行く選択もありますが、実は自分の半径数メートルの世界にも、研究の種になるものは転がっています。あれ？なんで？と感じる要素があれば、ちょっとでも調べてみる。それが研究の第一歩です」と話します。



大学院人文社会科学部
(文学系)
よねじま まゆこ
米島 万有子 准教授
立命館大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了。平成28年4月より、熊本大学文学部へ。熊本地震後、国立感染症研究所と共に被害の大きい益城町などで、蚊の発生調査を行っている。専門は、医学・健康地理学、環境地理学、地理情報科学。

追いつけ、その 身近で の生態を解き明かす やっかいな生物「蚊」



たまった水からボウフラを採集。種類を調査する

多くが土の中に埋まる、
遠い昔の人々の痕跡。
しかし古墳は、
「地上に見えるかたちで
残る貴重な考古資料」と
杉井健准教授は話します。
各地に残る古墳を調査し、
古墳時代を解き明かす。
そんな研究になくてはならないのが、
フィールドワークです。

古墳は、学生にも 適した研究対象

日本列島に朝鮮半島から
様々な文化が渡来した古墳時
代から古代・中世までを視野
に、当時の日本列島の人々の
暮らしを研究しているのが杉
井健准教授です。「考古学では、
調査対象物の多くは地中にあ
り、かつての集落や住居跡の
上に現在の暮らしがあるの
で、完結した現地調査はしづら
いんです。でも、古墳は違いま
す」。古墳は、日本では珍しく、
地上の構築物として現代まで
残されている考古資料だと杉
井准教授。「地上に見えている

ので調査計画も立てやすい
し、報告書の作成まで、一つの
古墳に対して研究が完結でき
る。学生が取り組む研究とし
ても適しています」。

これまで、天草や阿蘇、植木
などの古墳で調査研究を行っ
てきた杉井准教授。「たとえば
天草の古墳の特徴は八代地域
のもの共通し、同じ文化圏
だったことがわかります。熊
本の横穴式石室では石障とい
って、壁面の前に石の板を
立て並べるのですが、それは
八代海沿岸で生み出されま
す。次第に石障に装飾文様を
描くようになっていくので、
天草や八代の古墳は、熊本の
装飾古墳の発生を考える重要
な鍵とも言えます」と教えて
くれました。

「中途半端にしない」 フィールドで学ぶ責任

杉井准教授は、阿蘇の古墳
の調査研究も続けています。
阿蘇市にある長目塚古墳は今
は円墳に見えますが、もとは
前方後円墳です。「日本の古墳
のかたちは、方墳、円墳、前方

後円墳など多様ですが、近畿
地方にある同時期の最大の古
墳はすべて前方後円墳です。
ということは、当時もつとも
位が高かったのが前方後円墳
と考えられる。阿蘇に前方後
円墳があるということは、当
時ここに、中央と強いつなが
りがある人がいたと推測され
ます。長目塚古墳からは刀、鉄
鏃(矢じり)、鏡などが出土し
ており、鉄鏃の形態は近畿地
方で作られていたものと同じ
じ。そうした副葬品からも、近
畿と強いつながりがあったこ
とがわかります。今後は、現
在の精度と技術で各地の古墳
の記録をきちんと残していく
とともに、熊本地域の古墳時
代の解明をさらに進めていき
たいと話してくれました。

考古学にとって、フィール
ドワークは基本中の基本だと
杉井准教授。学生の半分は、文
化財関連の仕事に就くそう
です。「フィールドワークに携
わった後は、学生の顔つきが
変わります。共同作業なので、
人の仕事を見つづ、自分に何
ができるのかの判断が早くで
きるようになります。また、一
度掘り始めたなら途中で止めら
れないのが、埋葬施設での
フィールドワーク。「埋め戻し
た後で再開、というわけには
いきません。学生たちには、調
査とはそういうものであり、中
途半端に終わることは絶対に
しないこと、そして、計画して
最後まで責任を持ってやる、
ということを学んでほしいと
思います」。



1 阿蘇市手野地区にある上御倉古墳の調査。10日間の合宿で寝食を共にし、「チームプレーの考古学」を体得していく。学生たちは「夏の調査後は顔つきが変わる」と杉井先生
2 6世紀に造られた上御倉古墳の内部。積まれた巨石は地震でも壊れなかったという
3 石室の入り口
4 毎年、学生がまとめている報告書

文学部 歴史学科3年 やすはら まい
安原 真衣 さん

同じ目的を持った仲間と文字通り寝食を共にし、食事も自分たちで作り、ミーティングも繰り返し、どんどん結束が強まっていくのが考古学のフィールドワークの魅力。調査し測量してデータを取り、古墳の全体像が把握できた時は達成感があります。進んだ技術がなかった古代の人たちがどうやってこんな建造物を造ったのかと考えるとワクワクしますよ。次は対馬で2週間のフィールドワークが待っていて、それも楽しみにしています。



大学院人文社会科学部
(文学系)

すぎい たけし
杉井 健 准教授

大阪大学大学院文学研究科修了。平成6年4月、大阪大学理蔵文化財調査室助手に。平成10年4月より熊本大学文学部へ。熊本市、阿蘇市、上天草市などをフィールドに、毎年古墳の調査を行っている。専門は、日本考古学、古墳時代を中心に生活様式や文化の研究。

「古墳」の徹底調査から 熊本の古墳 時代の暮らしを見る

Japanese Archaeology



正確な標高を知るための測量

時間とともに、地域はその姿を変えます。その変化とともに、消えてしまう土地の「記憶」。古い資料と、今の地域住民に伝わる記憶の糸を紡ぎ、中世から現在につながる、土地の歴史を記録に残す—そんなフィールドワークに取り組むのが、春田直紀教授です。

古文書と現地調査で 中世の村を復原

春田直紀教授の専門分野は歴史学。日本の中世の海村や山村の生業史を研究しています。30年前、福井県若狭湾の漁業史の研究を始めたのが最初です。鎌倉時代や室町時代の『海つき』の村は、漁業だけでなく、塩をつくり年貢も塩で納めたり、狩猟や畑作、稲作、廻船業も行っていた。さまざまな生業を組み合わせて生きる村の姿が見えてきて、漁業史から海村史研究へと広がっていきました。中世にも海村、山村それぞれ独自の経済のあり方が存在し、物の交

換や流通で地域社会との関係を成り立たせていた、そんな生業村落論を提起したのが春田教授20代の頃でした。春田教授の研究手法は、対象となる土地の古文書を徹底的に読み解き、現在その土地に暮らす人々に聞き取り調査をして、その結果を踏まえてさらに当時の歴史データを引き出す、というものです。平成9年の熊本大学着任後は、阿蘇も研究フィールドとなりまし。熊本大学は、平安時代末くらいから江戸時代におよぶ阿蘇家文書を所蔵しています。しかし古文書を読むだけでは想像力も働かないし、具体的な知識も得られない。地元の人に聞くことで、古文書という歴史資料を生活者、生業、村という視点から解釈できます。春田教授はそうやって、中世の日本の村の姿、生業や産物、とりまく自然環境を「復原」していきます。

一カ所でも多く 記録を残したい

春田教授の研究室では、



2



3



1 平成29年のテーマは山鹿市。聞き取り調査では、町並みの変化や思い出などを高齢の方にじっくりと聞いていく 2 山鹿市で代々貸家業や酒造業を営んできた旧家「大森家」で見つかった明治18年の絵地図。眼鏡橋などが鮮やかに描かれている 3 山鹿市の歴史に欠かせない八千代座の資料も丁寧に調査

毎年、学生が参加する夏のフィールドワークを実施。年ごとに違う地域で、自治組織、行事信仰、土地利用調査などを行います。中心となる春田ゼミの学部3年生が調査準備から報告書の執筆まで担当。そのほかに学部2年生や院生、外部スタッフが調査員として参加します。「地元の人も含め、調査する約5日間は、まるでお祭りのような雰囲気なので、学生は、いい加減なことではできないという責任感を持って取り組んでいます」。

「私たちは、過去を調べているだけではありません。今調べられることを調べておいて、100年後のための歴史資料を作っているのです」と春田教授。あるフィールドワークで、90代の方が知っている地名情報を70代の方は全然知らない、ということがあったそう。「90代の方の話から、室町時代の古文書にある地名につながるものがわかりましたが、その方がいなくなったらその情報は永遠に失われます。今後聞き取り調査が厳しくなると、時間との戦いも感じています」と春田教授。毎年調査対象地域をかえ、「一カ所でも多く記録を残したい。でもそれは、私たちの思いやノウハウだけでは無理。フィールドワークで、地元の人と共同で作業をした結果として、地域の宝となる記録を残していきたいと思います」。

たけなが ななせ (左) 教育学部3年 竹永七瀬さん (右) 教育学部3年 赤崎拓登さん



2回目の参加という2人。今年は班をまとめ、指示を出す立場で参加しています。「教科書にない生活の歴史が、人と人のつながりで明らかになっていくのが面白い」と赤崎さん。「実体験を聞いていくのは、記憶が曖昧なこともあり、難しい。でも、実際に見て、聞いて、感じることができるのはフィールドワークの醍醐味」と竹永さん。



教育学部
はるた なおき
春田直紀 教授
大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。平成9年より熊本大学教育学部で、阿蘇などをフィールドに研究を行っている。専門は、日本中世史(生業論・環境論)。

現存する 100年後

情報を、今調べて残し の歴史資料をつくる



Subsistence History



数学分野
山田 裕史 教授
Hirofumi YAMADA
大学院先端科学研究部

研究室探訪

寝食を忘れて数学に没頭する。
そんな経験を自信とプライドに



群の元を行列として表す 表現論

山田裕史教授の研究テーマは表現論です。「数学には、大きく分けると、代数学、幾何学、解析学という3つの分野があります。代数学は、足す、引く、掛ける、割るという四則演算を抽象化して、『群』や『環』というような集合を考えます。たとえば、リンゴ、ミカン、バナナが並んでいて、それを置き換えるという操作を一つの集合の『元』(要素)とし、その置き換えという操作が成す群を考えます。あるいは、数が並ぶ行列では、行列の掛け算で群を成します。置き換えの場合は、4つを置き換えても、置き換えの全体は24通り。2つなら2通りしかありません。一方で、上に2つの数字、下に2つの数字が正方形に並ぶ行列においては、数は無限にあるので、行列の全体は無限集合ということになります。ところが、行列の掛け算に着目すれば、2個や24個の元からなる群と行列の成す群の構造に

おいては大差がありません。集合論としては有限個か無限個かは大きな違いですが、代数的に見れば構造は同じようなものであり、群という概念でまとめられます。その群の元、つまり一つひとつを置き換えるという操作を行列として表すことを表現と呼びます。さらにいうと、群の元を、ある空間からそれ自身の写像として表す、または変換として表すことが表現論であると話してくれました。

知られている証明も、自分で見つけ出すことに喜びを感じて
表現論は、数学の分野というよりは方法論だと山田教授。「群」というのは代数のオブジェクトであり、群を元の行列として表現することによって群そのものを研究するのなら代数学だし、代数を使って図形を考えるのなら幾何学、関数を考えるなら解析学というわけです。「数学では、たとえば先ほど話した置き換えという素朴な操作が、微分方程式という結構

高度なものに大きく関与していることが見えることがあるんです。自分の今までのキャリアの中でも2、3回しかない経験ですが、それが数学の醍醐味だと思います。」

数学の分野によっては相当の予備知識が必要なものもありますが、「私がやっている数学はそれほどの知識を必要とするわけではありませんが、むしろ、こんなことがあるんだという感動を得るには、何も知らないほうがいいかもしれません。」たとえ知られていることでも、自分で実験を通して証明を見つけて出すことに数学の喜びを感じてほしいと言います。ここで言う実験とは「思考実験」であり、「コンピューターなら数秒かからず結果が出ることも、あえてノートと鉛筆を用いて一日、一週間かけて手計算でやるような「実験」こそ、数学をやる楽しみがあると山田教授。「社会に直接役に立つことではないのですが、一生に一度でも、寝食を忘れて数学に取り組んだという自信やプライドを、大切にしてほしいと思います。」

密着！山田研究室



学内外の教員が集まり、勉強会をする様子
昨年の講演の様子



平成29年2月の「卒論発表会」の打ち上げの様子

lab's data

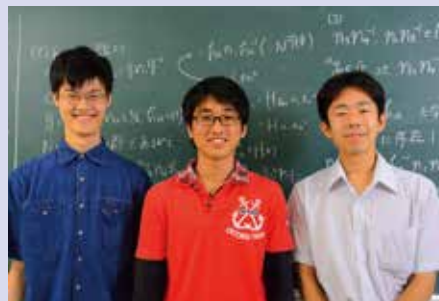
【大学院先端科学研究部
(理学系)数学分野】



□研究テーマ
表現論

□メンバー
理学部理学科数学コース4年3人
大学院自然科学研究科博士前期課程1年1人

Interview



大学院自然科学研究科博士前期課程1年
にしやま ゆうた
西山 雄太さん(左)

表現が好きだったことと、学生と気さくに接して下さる山田先生の人柄にひかれて、この研究室に入りました。大学の数学は、論理をたどり答えを出すことに重きを置きます。うまく証明できた時は頭がスッキリするし、論理を展開して導くことは楽しいです。数学をやっていると、見た目がまったく違って、よくよく見てみれば本質は同じ、ということを見極める力が付きます。それはいろいろな場面に応用できる力なのではないでしょうか。

理学部理学科数学コース4年
いのくち こうし
井ノ口 鴻志さん(中)

高校時代は、数学が得意というよりは数学好き。だから、人一倍努力して点数を取りました。大学でもわからないことは多いですが、先生や先輩に聞き、友だちと教えあえる環境があるので大丈夫。数学が好きならがんばれる、ということもあります。みんなで話し合い、何時間、何日もかけて一問が解けた時は爽快です。また、一問に対し何日もかけるような粘り強さは、将来にも生かされると思います。

理学部理学科数学コース4年
あべ かずし
安部 知さん(右)

山田先生は、メインの数学に加え、たとえば数学で使う言葉の読み方の、今と昔の違いなど、ちょっとした数学的教養ともいえるような知識をたくさん与えてくださいます。証明されていることも、一行目から二行目に行く行間が理解できない時があります。それは、感覚的につかないことが理由。なぜ時間がかかるのかを、山田先生がわかってくださっているのもありがたいと思っています。

震災後の実験機器等の固定について

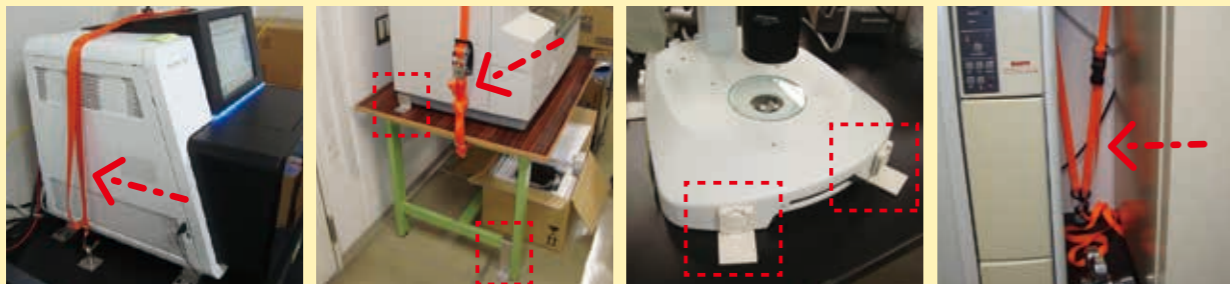
実験機器の床への固定

各種金具で機器の脚部やガスボンベスタンドを床に固定。そのほか、荷締めベルトを使った転倒防止の例。突っ張り棒を利用した補助的な転倒防止策も。



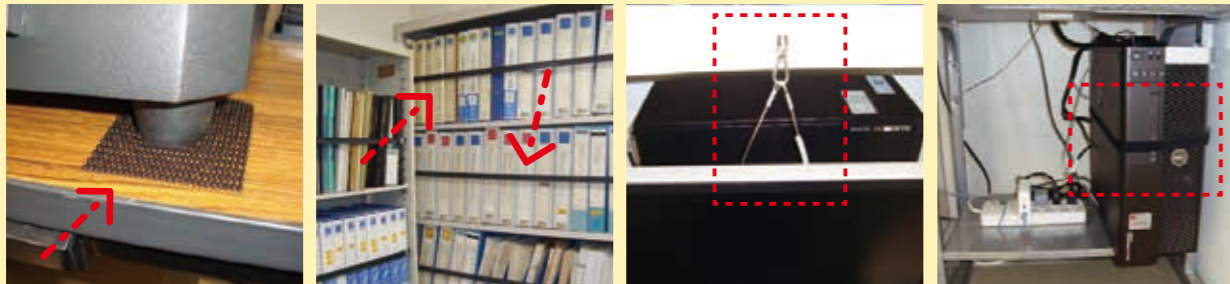
実験台と作業台上の機器固定

実験台は床だけでなく壁面固定も重要。壁面実験台は設置時固定されていないことが多く見落としがち。台上の実験機器は荷締めベルトを利用して固定する。



オフィス等における耐震施策

チェーンやベルトを使用した書棚の落下防止策例と、ノンスリップマットやワイヤーを利用したOA機器の固定例。



研究機器を固定するマニュアルはこちら
(有用なURLや業者の情報も載っています)

[発生研 固定法](#) [検索](#)

熊大なう。も見てね!



左から、谷直紀さん、関丘さん、白杵慎吾さん

固定対策のフィードバックは、支援への恩返し

私たちは発生研の技術職員で、普段は共通機器の管理運営や、研究支援をしています。地震後は、機器の修理や買い替え、固定などを進めてきました。西中村所長のリーダーシップのもと、固定マニュアルの作成を含め、情報の共有と発信に力を入れてきたのは、各所からの支援への感謝の意味もあります。研究機器に対する対策で自分たちが得られたものを社会にフィードバックする、という思いで取り組んでいます。

※詳しくは、熊本大学WEBマガジン「熊大なう。」でご紹介しています。

★生命科学系の共同研究を活性化するために発生研では「リエゾラボ研究推進施設」を設置し、教員や研究員・学生が施設内の「共通機器」を利用できるようにしています。

教訓を発信する

発生研の震災対策

生命科学と医学の融合を目指し、世界最先端の研究を行う熊本大学発生医学研究所(以下、発生研)。熊本地震では研究機器が落ちて壊れ、研究遅延だけでなく高額の被害を出しました。この経験を踏まえ、同じことを繰り返さないためにと始まった「固定プロジェクト」を、学内外に発信しています。

準備不足という
ミスを隠さない
同じ思いを
ほかの誰かがしないために

「高い場所にあるものはある程度固定されていましたが、低い位置に置いてある機器が落ちたことが被害を大きくしました。地震直後に地震の専門家を呼んでシンポジウムを開き、そこで地震の予知は不可能と聞きました。それなら機器を固定するしかない」と、固定プロジェクトが始まったわけですが、話すのは、西中村隆一 所長です。あらゆる研究機器を固定する方法をマニュアル化し、ウェブサイトに掲載。学内外に発信する理由を、「私たちは地震災害に対して準備不足でした。そのミスを隠

してはいけないと思う。隠せば、また誰かが同じ思いをするからです」と話します。「いざという時使いやすいように」という目的で、マニュアルはとてもコンパクトにまとめられています。マニュアルをまとめた一人が、嶋村健児 教授です。本震の際、8階にある共通機器の部屋にいて、ベンチの下に身を隠しつつ機械が滑り落ちる様子を見ていたそう。「揺れが相当続いた最後に落ちていったんです。だから、せめて滑り止めマットが敷いてあったら防げたかも、と思いました」。共通機器の固定には専門業者を頼みましたが、「滑り止めが敷いてあるだけでも違うと思います。自分の研究室でやったことは市販の器具でも可能で、コストも下げられます」と話してくれました。



発生医学研究所
しまむら けんし
嶋村 健児 教授



発生医学研究所長
にしなかむら りゅういち
西中村 隆一 教授

「学生企画」学祭に込められた想いを探れ!

熊本大学学祭をたどる

熊本大学には、黒髪、大江、本荘キャンパスそれぞれに異なる大学祭があります。黒髪では「紫熊祭」、大江では「蕃滋祭」、本荘では「本九祭」。それぞれの学祭がどんな想いで始まり、今、どんな想いで続けられているのか、今年実施される「蕃滋祭」、「紫熊祭」の実行委員長に聞きました!

(※本九祭は2015年の第21回以降、開催が見送られています)

私たちがつくりました!
紫熊祭実行委員会



左から、工学部3年 興梧 春花、法学部2年 廣瀬 伯里華、文学部2年 高山 怜史、文学部2年 武藤 茉莉

今年の開催日は
11月4日~5日
大江キャンパス

蕃滋祭

肥後細川藩の薬園「蕃滋園」

にちなんで名付けられ、薬学部で開催される学園祭。今年で7回目となります。「薬学の面白さを広める」ことを目標に活動しており、薬膳料理づくりや薬剤師体験といった薬学部ならではの企画を行う他、ミスコン、ミスターコンなども開催しています。

蕃滋祭の歴史

- 1950年代前半
薬品展を開始。
全学の学園祭に発展
(1966年に「熊大祭」に改称)
- 1978年(昭和53年)
12年ぶりに薬学展開催
(その後4年ごとに開催)
- 1995年(平成7年)
薬学展毎年開催へ
- 2010年(平成22年)
熊大125周年を記念し、
大規模な薬学展を開催
- 2011年(平成23年)
第1回蕃滋祭開催



会場となる大江キャンパスの正門では蕃滋祭の門が迎えます



第7回蕃滋祭 実行委員長 中村 遼太 さん

薬学の魅力発信のために薬学の面白さに触れて関心を持って欲しい
前身の薬学展から変わらない活動理念が「薬学の面白さ」を発信すること。学生主体での開催となった、第1回蕃滋祭からは、祭りをより身近に感じてもらおうと、工夫しながら続けていました。32人の実行委員での運営は正直大変。でも薬学を広める気持ちさえあればなんとかなります。来年以降も理念を忘れずに頑張っていきたいです。

今年のおすすめ企画



薬剤師体験

白衣を着て、まるで薬剤師になったかのような体験をしてみませんか? ラムネをすりつぶして粉薬を作ったり、薬の包装をしたり、服用の際の注意点を患者さんに説明したりする体験ができます。年に一度、蕃滋祭だけの経験です!

今年の開催日は
11月3日~5日
黒髪キャンパス

紫熊祭

「総和」を意味するギリシア文字「Σ」にちなんで名付けられた紫熊祭。黒髪キャンパスで3日間開催される大学祭には毎年2万人を超える人が訪れます。以前の大学祭実行委員会が解散した後、熊新プロジェクトというプロジェクトが立ち上げられ、誕生しました。学内外を問わず、子どもから大人まで楽しんでもらえるよう、さまざまな企画が行われています。

第3回から第6回へ挑戦し続ける紫熊祭を



第3回紫熊祭 実行委員長 みやもと しんや 宮本 慎也 さん

僕は第1回から紫熊祭の運営に携わっていて、第3回で推薦されて委員長になりました。委員同士の繋がりを深め、もっと安定して紫熊祭を運営できるようにと体制を整えた時期でしたね。第6回なんてまだ若いですが、挑戦を止めてしまえば下がる一方。まだまだ挑戦し続けて欲しいです。

九州で一番の大学祭を目指して



第6回紫熊祭 実行委員長 おか けんた 岡 健太 さん

運営に携わることや企画することが好きで、実行委員会に入りました。委員長になつてからは、他大学や企業等、外部と関わる機会も増え、視野が広がりました。今年は紫熊祭に参加するサークルへの対応に力を入れ、より参加しやすく、より充実した紫熊祭を目指しています。九州一の大学祭にしたいです。

今年のおすすめ企画

熊大コレクション2017

「MONO TONE and ONE TONE」をテーマに、今年もファッションショーを開催。熊本のセレクトショップにコーディネートしていただき、熊大生がモデルを務めます。紫熊祭1日目の夜を彩る、毎年大好評の企画です。ぜひご覧あれ!



幕開けとなる企画「オープニング」では書道部によるパフォーマンスが行われます。ここでダイナミックに書かれるのは紫熊祭のメインテーマで、サブステージのバックパネルとして開催期間中飾られます

紫熊祭の歴史

- 1978年(昭和53年)
大学の正式な行事として黒髪祭がスタート
- 1994年(平成6年)
15回続いた黒髪祭は終了、
第1回熊大祭の開催
(2011年まで18回開催)
- 2011年(平成23年)
12月に熊大祭実行委員会解散
- 2012年(平成24年)
3月に熊新プロジェクト発足
- 2012年(平成24年)
11月に第1回紫熊祭開催



紫熊祭公式ホームページがご覧いただけます! 紫熊祭に関する情報がたくさん載っているので要チェック!

文学部 「世界に、より豊かな未来を」 ワクワクが止まらない仕事です



玉城 早織

Saori TAMAKI

株式会社日立製作所
(東京都)

文学部コミュニケーション情報学科
平成26年度卒

平成5年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立済々黌高等学校卒業。座右の銘は「自分の人生を楽しむのは自分だけ」。趣味は、音楽フェス参加とゴルフ、上京してから始めた生け花。

熊大のココがイイ！

卒業してからもうずっと立ち寄ってしまう、四季を感ぜられる心地よい雰囲気のカンパスです。

世界の貧困や紛争に心を痛め 彼らを支える手助けがしたかった

人が魅力を感じるもの・ワクワクするものを生み出すなんてかっこいい、という漠然とした憧れから、放送業界や広告業界に進みたいと考えていました。一方で、世界各地の紛争・貧困の痛ましい報道に心を痛め、彼らの生活を支える手助けをしたいと考えていました。現職に就き、後者の夢は実現しています。

物事を、多角的に考える 難しさとおもしろさを知ったゼミ活動

精神的に遊び、学び、視野が広がりました。特に印象的なのは、ゼミ活動の一つ、鶴屋百貨店と共同で企画・運営した子ども向けイベントです。子どもが楽しめることはもちろん、家族や百貨店が魅力を感じるかなど、物事を多角的に捉える難しさ・おもしろさを経験しました。このとき授かった視点は、今でも顧客向けの提案書作成に活かしています。

発展途上国に向け、 電子政府化を提案

就職活動でさまざまな業界を知る中、ICTが実現するスマートな未来に魅力を感じ、日立製作所にシステムエンジニア(SE)として入社。現在は、海外の公共案件担当として、発展途上国に向けて電子政府化を提案しています。世界を飛び回り、より豊かな未来を築くお手伝いをしていると思うと、ワクワクが止まらない日々です。

医学部 臨床医の今も、大学院時代の 研究の視点を忘れずに



唐杉 樹

Tatsuki KARASUGI

熊本大学医学部附属病院
整形外科 助教

医学部医学科
平成12年度卒
大学院医学教育部博士課程
平成21年度修了

昭和51年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立熊本高等学校から熊本大学医学部へ進学し卒業後は熊本大学附属病院整形外科へ入局。臨床経験を積んだ後に熊本大学大学院へ入学、修了後熊本大学医学部附属病院に勤務。

熊大のココがイイ！

共同研究など他大学・他施設との連携に対するサポート体制が整っています。

医師を目指す友人たちに 触発された高校時代

小さい頃から「人体の不思議さ」に興味があり、それに携わりたい職業に就きたいと漠然と考えていました。父親が大学教員であった影響もあり、自分も、たとえば教員となり勉強や研究を行いたいと考えてようになりました。高校では親しい友人たちが医師を目指して努力していることを知り、彼らに触発され医師となるのが目標となりました。

没頭した部活動で得た 人のつながりに今も感謝

学業について高い志をもって入学したつもりだったのですが、中学生から始めたバスケットボールを大学でも続けることになり(結果として学業は二の次となり)、部活中心の大学生生活を送りました。しかしその活動を通して得た先輩や同級生や後輩とのつながりは、現在でもかけがえのないものとなっています。

肩関節疾患の治療を 専門的に行う

医師となり5年の臨床経験を積んだ後に大学院に入学し、在学中に理化学研究所に国内留学をする機会を得て、「整形外科疾患の原因遺伝子の解明」をテーマとした研究を行いました。大学院修了後は熊本大学医学部附属病院に勤務し、研究の視野をできるだけ保つよう意識しながら、臨床の場で肩関節疾患の治療を専門的に行っています。

薬学部 救急・集中医療の現場で 薬剤師の仕事にベストを尽くす



甲斐 光

Hikaru KAI

社会福祉法人
恩賜財団済生会熊本病院
薬剤部 薬剤師

薬学部薬科学科
平成20年度卒
大学院薬学教育部博士前期課程
生命薬化学専攻薬学生化学分野
平成22年度修了

昭和61年生まれ、宮崎県延岡市出身。宮崎県立延岡東高等学校を卒業後、熊本大学薬学部を経て大学院へ。修了後、済生会熊本病院に薬剤師として入職。趣味はサッカー。

熊大のココがイイ！

信頼できる仲間と出会う場所

入院をきっかけに 薬に興味を持ち始めた

もともとは学校の先生になって生徒たちと一緒に勉強や部活動を楽しめたらいいな、と考えていましたが、高校の途中で入院したことをきっかけに薬に興味を持ち始め、薬について学べる薬学部に進学しようと思うようになりました。

多くの人と知り合えて 大学も社会人生活も豊かに

飲み会が好きで、いろんな飲み会に参加しては騒いだり語り合ったりしていました。そこで多くの人と知り合ったおかげで、大学生生活や現在の社会人生活がより楽しいものになっています。研究室に配属されてからは朝から晩まで、時には研究室に泊まって実験を行うこともあり、先生・研究室メンバーと一緒に大変ながらも充実した研究室生活をおくることができました。

医師や看護師と連携を密に より良い医療を目指して日々奮闘

現在は救急・集中治療にかかわる病棟で薬剤師をしています。重症度、緊急度の高い患者さんが多い病棟で、医師や看護師など各職種と連携し、その中で薬剤師がどのようにかわればより患者さんのためになるかを考えながら日々励んでいます。

理学部 研究室で知った「勉強の楽しさ」 研究開発の現職は最高の仕事場



野添 惣一郎

Soichiro NOZOE

京セラ株式会社中央研究所
(京都府)

理学部理学科
平成25年度卒
大学院自然科学研究科博士前期課程
平成27年度修了

平成4年生まれ、鹿児島県鹿児島市出身。鹿児島県立鹿屋中央高等学校卒業。中学から大学まで弓道部に所属。研究室に入って勉強が好きになってからは、知識が増えることが楽しみ。趣味はF1観戦。

熊大のココがイイ！

人生を変えてくれる先生がいっぱいいるところと自然の近くにあるところ。疲れたときは散歩できる。

薬の研究の仕事のほかに 物理学者にも憧れ

高校生の時は薬の研究をしたいと考えていました。理由は、母の病気を薬で治したいと思っていたからです。それと同時に、その頃放送されていた「ガリレオ」という物理学者のドラマに影響され、物理学者になりたいとも思っていました。

研究室に入ってから勉強好きに 土日も論文を読んでいた

学部時代は、お世辞にも成績が良かったとは言えませんでした。自分で好んで勉強するようになったのは、研究室に入ってから。研究が好きになり、土日も毎日論文を読んでいた。修士論文で参考文献を100報以上載せることが夢で、実際に120報ほど載せることができました。

勉強する機会が多い仕事 毎日が楽しい！

今は、研究開発を行う部署に所属しています。研究室で身につけた、「勉強好き」はそのままに、家では勉強を続けながら、会社では研究開発の仕事に動んでいます。勉強する機会が多い研究開発は、私にとって最高の場所。毎日楽しく仕事をしています。

法学部 会社のグローバル化をけん引できる 法務人材を目指して



井上 竜汰

Ryuta INOUE

パナソニック株式会社
(大阪府)

法学部法学科
平成27年度卒

平成6年生まれ、福岡県福岡市出身。福岡県立城南高等学校卒業後、熊本大学法学部を経てパナソニック株式会社へ入社。入社後は法務部に配属。趣味はピアノとトランペットで、週末は所属している吹奏楽団において社外の仲間と交流している。

熊大のココがイイ！

学びたい、大切な仲間をつくりたい、遊びたい、すべて実現できる場所。

文系では難易度が高い法学部 高い壁に挑戦したいと受験

高校生の頃は大きな夢はなく、進学校だったこともあり、日々勉強に全力で動む毎日でした。小さい頃から正義感が強く、曲がったことが嫌いで、法律知識や論理的思考力を身につけたいと思い法学部を目指しました。法学部は文系学部のなかでは難易度が高いので、高い壁に挑戦するという意味でも法学部を受験することに決めました。

夢のひとつ、「法学部首席」を実現 ゼミでも貴重な体験ができた

何事にも全力で取り組んだ大学生活でした。ひとつの夢だった法学部首席になることができ、伊藤ゼミでは、アメリカ研修や五大学合同ゼミ等で貴重な経験ができました。パドミントンサークルや不動産関係のアルバイトにも打ち込み、一生の思い出や大切な人とのつながりをたくさん作ることができました。

常に、素直さと学ぶ姿勢を 忘れずに全力で取り組む

契約審査や契約書面の作成、社内における法律相談の対応およびコンプライアンス基盤構築のための研修企画・実施等の業務を、国内外問わず行っています。学問の法律と実務の法律にはギャップがあり、難しさを感じることも多々ありますが、常に素直さと学ぶ姿勢を忘れずに全力で取り組んでいます。今後はパナソニックのグローバル化をけん引できるような法務人材になりたいと思っています。

工学部 有機合成をベースにした試薬開発 最先端の研究に貢献できる喜び



立中 佑希

Yuki TATENAKA

株式会社同仁化学研究所
開発部(熊本県)

工学部物質生命化学科
平成19年度卒
大学院自然科学研究科博士前期課程
平成21年度修了

昭和60年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立済々黌高等学校卒業後、熊本大学を経て大学院へ。化学に興味があり、同仁化学研究所へ入社。趣味はドライブがてら温泉に入りにいくこと。

熊大のココがイイ！

自由に研究でき、尊敬できる先生が多いところ。

化学好きだった高校時代 化学に携わる道を志す

高校生の頃、部活は硬式テニス部に所属し、スポーツに動かしむ一方、勉強では化学が特に好きで熱心に取り組んでいました。化学をもっと知りたい、学びたいと思い、熊本大学工学部物質生命化学科を志望し、将来は化学に携わった仕事をしたい、研究者になりたいと考えていました。

優秀な先輩、仲の良い仲間 あつという間の研究室生活

学部時代は、塾講師のアルバイトをしながらか必死に単位を取得。4年から修士2年は、高分子の合成や評価を繰り返して行っていました。優秀な先輩が多く、ついていくのが大変でしたが、研究室の皆が仲良く、楽しくてあつという間の3年間でした。

最先端に行く研究者との 交流も積極的に

現在は同仁化学研究所の開発部で有機合成をベースとした試薬の研究開発を行っています。また、実際に学会や研究会に参加し、最先端で活躍する先生方と交流も行っています。開発した試薬が最先端の研究に貢献できることが非常にうれしく、日々精進しています。

教育学部 先生たちと話し合いながら 常により良い支援を考える毎日



藤田 智子

Tomoko FUJITA

熊本県立荒尾支援学校 教諭

教育学部養護学校教員養成課程
平成18年度卒
大学院教育学研究科修士課程
障害児教育専攻
平成20年度修了

昭和59年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立東稜高等学校卒業後、熊本大学、大学院へ進学。趣味は、旅行、史跡めぐり、美術鑑賞。

熊大のココがイイ！

教員になってから必要になる力について深く理解している先生方が、熱心に親身に指導して下さいます。

本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している

先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

INFO

文・法学部棟にて『平江図』を展示しています

武夫原会の支援を受けて、文・法学部棟正面玄関にて『平江図』を展示しております。本展示品は中国・南宋時代の紹定2(1229)年に作成された石碑(実物)から採取された拓本です(2004年9月に採拓)。サイズは高さ約280cm、幅約140cm。現在は、採拓はもちろんのこと、写真撮影も禁止されています。当時の平江府(現在の江蘇省蘇州市)の城郭内の地図が彫刻されており、現存する石碑の都市図としては中国最古のものに属します。南宋時代の平江府は文化・経済の最先端地域であり、「平江図」には平江府の城壁・城門・道路・水路・衛門・寺観・坊表・橋梁など

どが微細に描かれており、宋代の城郭都市の具体的な相貌を知り得るきわめて貴重な史料ですので、文・法学部棟にお越しいただき、是非ご覧下さい。

【寄贈】
宮澤知之(佛教大学教授)
伊藤正彦(人文社会科学部教授)



【額装】武夫原会(法学系・文学系同窓会)

INFO

第33回熊本大学附属図書館貴重資料展「近世熊本城の被災と修復」、公開講演会/第12回永青文庫セミナー「細川忠利の領国支配と熊本城」を開催します

今回の貴重資料展では、平成28年熊本地震以来調査をすすめてきた江戸時代の地震災害に関する古文書や絵図を、永青文庫研究センター長 稲葉継陽教授の監修によりご紹介いたします。

【開催日時】
貴重資料展：11月3日(金)～5日(日)
10:00～17:00(3日間限定)

公開講演会/第12回永青文庫セミナー：
11月3日(金) 14:00～15:30

【場所】
熊本大学附属図書館(中央館)1階
ラーニングcommons

【参加対象者】
本学学生・教職員・一般の方など、どなたでも参加いただけます。

【申込方法】
事前申し込みは不要です。

【参加費】
無料

【問い合わせ先】
熊本大学附属図書館
TEL:096-342-2212
【URL】
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/2395



REPORT

ブラパー大学(タイ)と大学間学術・学生交流協定を締結しました

タイ王国ブラパー大学(Burapha Univ.)と学生・研究交流を促進するための大学間交流協定に関する合意がなされ、8月4日(金)にブラパー大学にて調印式が執り行われました。熊本大学からは、甲斐広文(薬学部)と岡田誠治(工学部)が参加しました。前日にブラパー大学の教育病院であり、生薬研究で有名なチャオプラヤアパイブーベン病院を視察し、調印式後には薬学部・伝統医学部・理学部・附属海洋生物研究所の視察が行われ、今後に向けての相互理解と交流が深められました。

ブラパー大学は、タイ東部唯一の国立大学で薬学部・伝統医学部を始めとする23学

部を有する総合大学です。特にタイの伝統医学に基づく生薬学や海洋生物学・海洋植物学に強みを持ち、キャンパス内に海洋生物水族館を有しています。熊本大学薬学部・薬用資源エコフロンティアセンター・創薬研究センター等との連携による生命科学系の共同研究の展開が期待されています。



ブラパー大学での調印式

REPORT

法学部と九州大学法科大学院との教育連携に関する協定を締結しました

九州大学法科大学院と本学法学部は、法曹を志望する学生への協同教育を目的とする教育連携に関する協定調印式を8月7日(月)に本学で行いました。

九州大学が本学へ講師を派遣するほか、本学で九州大学法科大学院進学説明会を開催します。

本学法科大学院は、平成28年度以降の学生募集を停止していますが、九州大学との協定により、法曹養成制度、司法試験等の情報を共有するとともに、法曹志望学生への学習環境を維持し、質の高い学生を養成していきます。

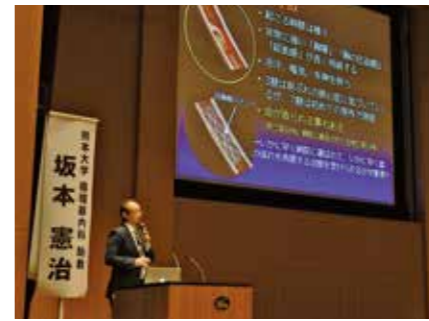


REPORT

第10回熊本循環器市民公開講座を開催しました

5月21日(日)、「これだけは知っておきたい血管病の知識」と題した第10回熊本循環器市民講座をホテル熊本テルサ・テルサホールで開催しました。

本学医学部附属病院から福井教授、辻田教授、坂本助教、橋口薬剤師が登壇し、市民の皆様へ心臓病・血管病の講演を行いました。約600名の市民の皆様にご参加頂き、大盛況のうちに終了いたしました。



REPORT

「はばたけ! 熊本サイエンスガール Girls, Enjoy science!」のイベントを開催しました

本事業は平成29年度から2年間、女子中高生の理系進路選択を促進するために、JSTの支援のもとで理工系分野に対する興味・関心を喚起する様々な取り組みを行っています。以下、最近の活動を報告します。

7月14日に附属中学校、7月22日に御船中学校と天草高等学校で「サテライトセミナー」を実施し、女子中高生に対して、本学の教員による講演や大学院生による座談会・進路相談会を行いました。また、7月22日には工学部2号館で「聞いてみんね、みつけんね! 理系のロールモデル」講演会も開催し、250名もの

女子中高生に対して本学OG・在学生による講演や理工系研究室への見学会を行いました。そして、8月5日の黒髪地区オープンキャンパスにおいては「ガールズ相談室(女子高生のための進路相談室)」を開催し、8月22日には「ガールズスクール」として熊本県産業技術センターで材料科学や食品科学についての実習を行いました。理工系に興味があるたくさんの女子中高生に参加して頂き、科学技術について興味と関心をさらに広げる機会となりました。最近の女子中高生の理工系に対する関心が低くはないことを実感する夏でした。



「サテライトセミナー」御船中学校にて



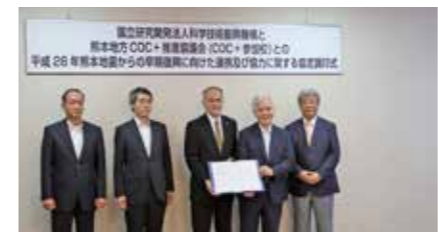
「理系のロールモデル」講演会の様子

REPORT

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)と熊本地方COC+推進協議会(COC+参加校)との平成28年熊本地震からの早期復興に向けた連携及び協力に関する協定を締結しました

平成28年熊本地震により被災した熊本地方の早期復興に寄与するために科学技術振興機構の協力が得られることとなり、熊本地方の大学、自治体及び産業界が地方創生に取り組み、本学が代表を務める「熊本地方COC+推進協議会」との間で連携・協力協定が7月21日(金)に締結されました。

科学技術振興機構は、文部科学省が所管する国立研究開発法人であり、東日本大震災からの復興支援において、様々な事業を実施したノウハウやその幅広い研究ネットワークを持つことから、熊本地方においても特に産業界の復興に大きく寄与することが期待されています。



REPORT

ひらめき☆ときめきサイエンス「子宮頸がんに対するくすりをつくってみよう!」を開催しました

8月11日(金)、薬学部宮本記念館にて、ひらめき☆ときめきサイエンス「子宮頸がんに対するくすりをつくってみよう!」を開催しました。

大学院生命科学部片淵秀隆教授、田代浩徳教授および本山敬一准教授を講師に、子宮および子宮頸がんについてわかりやすく学ぶ授業を実施しました。特筆すべきことに、昨年度を受講者(熊本信愛女学院高校3年生3名)が、自主的に調査活動を行った子宮頸がんの内容について口頭発表しました。21名の高校生および1名の中学生が参加し、大学で研究している抗がん剤を用いて、がん細胞がオートファジーにて死滅する細胞の形態変化等について、実習を通じて体験しました。体験者からは「大学の研究を実際に体験できてとても面白かった」といった感想が寄せられました。

本プログラムを担当する同薬学系の有馬俊教授の専門分野は薬学で、特にがん細胞のみくすり作用することで、くすりの効き目を高め、副作用を和らげることの可能なDDSの開発研究を行っています。



開講式



実験風景

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

№39 (平成29年5月1日～平成29年7月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約13億2623万円(平成29年7月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。また、平成28年の熊本地震復興事業基金へのお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生へ対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成29年5月1日から平成29年7月31日までの間に入金を確認させていただきました個人314名、68法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄付金額の掲載

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

<熊本大学基金>

【1066.7万円】	熊本大学工業会会員有志(1066.7)				
【1000万円】	熊本大学工業会(1000)				
【100万円】	一般財団法人化学及血清療法研究所(12000) 医療法人杉村会 杉村病院(100)				
【50万円】	医療法人社団岡山会 九州記念病院(50)				
【20万円】	伊藤 明彦(20)	前川 嘉洋(51)			
【10万円】	浅原 芳資(30)	中山 秀樹(10)	早川 朋也(15)	医療法人社団愛育会福田病院(22)	株式会社岩永組(10) 株式会社三勢(30)
	ラ・サール医療部会 鹿児島支部(60)				
【7万円】	十業会有志(7)				
【5万円以下】	安東 由喜雄(10)	石崎 友之(4)	大人 初代(1)	小貫 フキ子(1.8)	柏木 明(2)
	蔵野 良一(3)	古崎 新一郎(6)	島原 俊英(1.5)	未永 綾香(10)	徳淵 昭代(2)
	馬場 太果志(2)	林 憲弘(1)	本多 邦雄(9)	本田 雅博(1)	前田 一隆(2)
	松本 義幸(6)	宮崎 章(4)	桃原 久枝(3)	医療法人良順會 藤好クリニック(5)	株式会社赤ちゃんの城(5)
	熊本空港ビルディング株式会社(15)				

<熊本地震復興事業基金>

【200万円】	株式会社ネクスト(200)		
【20万円】	山本 昌洋(20)		
【5万円以下】	本島 昭男(8)	吹上 安伸(8)	佐賀県庁熊本大学同窓会 龍南会有志一同(13.5)

2. お名前のみ掲載

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

<熊本大学基金>

赤星 一信 [3]	赤松 信義	浅山 滉 [16]	安部 省司 [4]	荒川 誠治	荒木 正剛	安東 恵子	伊方 敏勝 [5]
井形 朋英	生田 拓也 [3]	池田 徳典	池田 公史 [3]	石橋 史成 [2]	磯山 理一郎 [2]	市村 誉	一安 幸治 [4]
井上 泰輝 [2]	井上 吉弘 [8]	入部 兼繁 [3]	岩井 顯 [3]	岩瀬 弘敬 [7]	植田 明彦	上塚 高弘 [6]	衛藤 光明 [18]
大久保 史明 [2]	大田 守弥	大津 敬一郎 [5]	大林 光念 [2]	緒方 満洲男	緒方 義也 [5]	尾崎 峯生	笠置 恭宏 [3]
加藤 勇樹 [2]	金矢 光弘	榊山 資紀	神山 憲次郎	亀崎 佐織	菊池 健 [31]	北島 美則 [10]	絹脇 晴一郎 [8]
久保田 敏昭 [5]	隈部 寿一 [3]	隈部 淳一 [6]	古賀 文晴 [3]	齊木 一弘 [2]	酒匂 光郎 [2]	佐田 英信 [5]	塩見 祐一 [5]
島田 信也	瀬戸 致行 [12]	荘田 恭聖	高木 彰信 [5]	高田 重矩 [2]	高野 義久	高橋 大貴 [2]	高松 孝太郎
田上 容正 [2]	太郎良 公生	千島 英一 [6]	千々和 亨	連川 貞弘 [2]	徳尾 芳道 [3]	富澤 一仁 [3]	中川 健志 [2]
中島 誠 [9]	仲宗根 正 [2]	中西 康之 [2]	中西 義孝	中原 圭一	中村 清史 [3]	中村 亮一 [8]	仲本 晴男 [4]
中山 裕史	長谷川 秀 [6]	波多野 靖治 [2]	波多野 恭行 [9]	羽野 秀子	寶崎 剛	早野 恵子 [3]	東 大弼 [3]
東 政弘 [2]	肥山 孝俊 [2]	福井 寿啓	福村 佳代子 [2]	福村 昭信 [2]	藤井 一彦	藤木 俊一 [2]	二塚 信 [13]
古川 雄也	前田 隆宏	正高 佑志	増田 曜章	松井 啓隆	松尾 廣 [2]	松岡 三正 [3]	松本 健一
松本 博善 [3]	満井 浩一	宮村 信博 [3]	宮本 裕士 [2]	米良 昭彦	本島 昭男 [4]	森永 秀和 [3]	山内 穰滋 [7]
山下 賢	山下 太郎	山田 孝吉 [6]	山田 裕章	山本 栄祐 [6]	山元 慎一	横山 芳樹 [2]	吉水 卓見 [3]
渡邊 好春 [2]	ありむら歯科医院	医療法人 天草病院	医療法人社団順幸会	医療法人聖粒会慈恵病院 [2]	医療法人清和会 水前寺とうや病院		
医療法人泰光会	株式会社アセット	株式会社エス・エル	株式会社キンキ	株式会社グリーンム	株式会社こざき	株式会社坂井幸吉商店 [2]	
株式会社ハウディ	株式会社藤島工務店	九州産交運輸株式会社	熊本医学会 [5]	熊本大学医学部医学科後援会	熊本トヨペット株式会社		
熊本不二コンクリート工業株式会社	社会福祉法人聖嬰会	イエスの聖心病院	正見株式会社 [3]		大建工業株式会社		
大和興産株式会社熊本支店	堤化学株式会社 [11]	東京エレクトロン九州株式会社 [3]		ネットヨタ熊本株式会社			
有限会社インテリアシンコー [2]	有限会社九州松栄産業	有限会社田迎電気設備 [2]		和久田建設株式会社			

<熊本地震復興事業基金>

石井 忠光	大森 雅岳	梶 修一郎 [4]	児玉 伸子 [3]	宮本 保 [9]	株式会社セントラルエキスプレスライン
株式会社ミカド科学産業 [2]					

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人156名、19法人・団体等

INFO

工学部創立120周年記念式典・記念祝賀会を開催します

本年、熊本大学工学部は創立120周年を迎えます。これを記念して、「復興と展開 ～夢を紡ぐ絆～」をスローガンとして記念イベントを11月4日に、工学部百周年記念館を中心に工学部キャンパスで開催します。是非、お問い合わせの上、奮ってご参加ください。

詳細情報は、工学部および工業会のホームページ、工業会会報、Facebook等で随時発信しています。

【開催日時・場所】

11月4日(土)
熊本大学工学部百周年記念館を中心とした工学部キャンパス(黒髪キャンパス南地区)

【プログラム】

12:45～13:30 熊本大学工学部創立120周年記念式典
13:30～15:00 記念講演会
15:00～17:00 学科ごとの見学会・講演会(詳細は学科HPをご覧ください)
17:00～19:00 記念祝賀会(工学部キャンパス)

【参加対象者】

工学部同窓生・教員・学生など、工学部に縁のある方、どなたでも

【申込方法】

記念祝賀会の参加登録をお願いします。

<https://www.k-kogyokai.eng.kumamoto-u.ac.jp/touroku.html>

【参加費】

祝賀会参加費 5,000円
(ご伴侶やお子様などの同伴者1,000円)

【問い合わせ先】

●自然科学系事務課 総務担当
TEL:096-342-3513/FAX:096-342-3510

●熊本大学工業会

TEL:096-342-3819/FAX:096-343-7272

【URL】

工学部ホームページ
<http://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/index.php>
工業会のホームページ
<https://www.k-kogyokai.eng.kumamoto-u.ac.jp/120.html>



熊本大学工学部創立120周年記念事業
Facebook
<https://www.facebook.com/KumadaiKogyokai/>

INFO

夢科学探検2017「理学部探検、工学部探検、もの・クリChallenge」を開催します

参加者が例年2000名を超える本学黒髪キャンパス南地区では最大の一般市民向けのイベントの一つで、今回で25回目を迎えます。本年度は約100件の演示実験を予定しています。

【開催日時・場所】

10月28日(土) 10:00～15:00
熊本大学黒髪キャンパス南地区
(工学部・理学部・大学院自然科学研究科)

【参加対象者】

小学生～一般の方

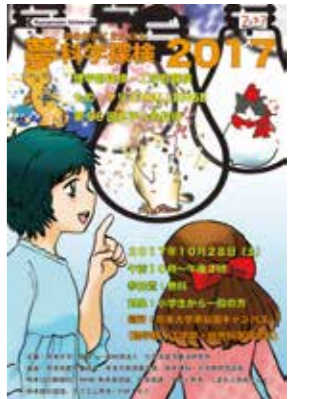
【申込方法】

事前申込は不要。
当日お越しただいで各ブースを回っていただく形になっております。

【参加費】 無料

【問い合わせ先】

自然科学系事務課 工学部教務担当
TEL:096-342-3522
E-Mail: yume@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp
【URL】
<http://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/index.php>

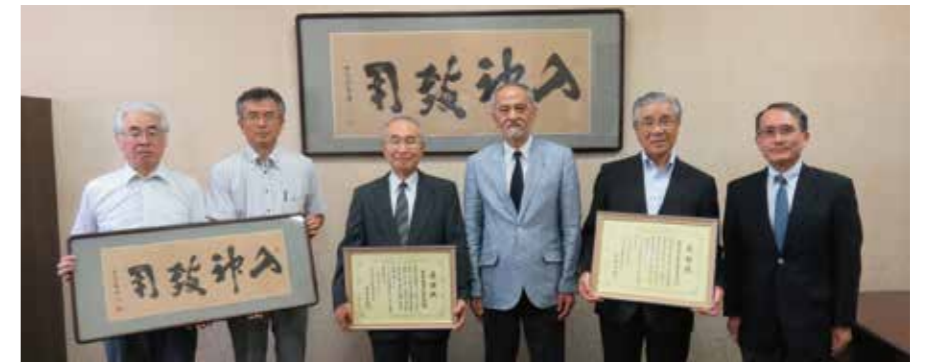


REPORT

熊本大学工業会様及び熊本大学工業会会員有志様から、熊本大学基金に寄附金の贈呈を受けました

この度、熊本大学工業会様から本学工学部の教育研究に活用してほしいと、1,000万円のご寄附をいただき、また、熊本大学工業会会員有志様から、同じく本学工学部の教育研究支援事業に約483万円及び工学部創立120周年記念事業に約539万円のご寄附をいただきました。

今回のご寄附に対し、7月25日(火)に感謝状贈呈式が執り行われ、原田学長から佐藤工業会長に栄誉会員の感謝状と「入神致用」の扁額が贈られました。



(左から 熊本大学工業会 戸塚常任理事、同 上田常任理事、佐藤工業会会長、熊本大学原田学長、熊本大学工業会 赤星理事、同 高島常任理事)



夏目金之助(漱石)による開校記念式の祝辞 (五高記念館所蔵)

第五高等学校では10月10日を開校記念日として式典や運動会を開催した。明治30(1897)年のこの日、教員総代として祝辞を読み上げたのは教授夏目金之助であった。「夫レ教育ハ建国ノ基礎ニシテ師弟ノ和熟ハ育英ノ大本タリ」と始まる文章は当時の学校教育に期待された人材育成の使命を、機械的に果たすのではなく、心からの交わりの中で育んで行くという決意表明とも言える内容であり、今日も色あせることのない教育の理想である。

一英語教師であった漱石も、これを体現するかのような辛辣さを含んだ厳しい授業と思いやりのある日常で生徒たちに接し、彼らに大きな感銘を与えていた。

後に漱石の下に学んだ生徒たちの中から、優れた教師が数多く誕生した。彼らは文学上の弟子たちほど著名ではなかったが、学究としての漱石の姿を鏡とし、それぞれの生涯を一教師として現場での教育に費やした。彼らの真摯で木訥な姿は、各地で理想の教師像として今なお語り継がれている。

文 藤本 秀子(五高記念館)

※記念式、記念日は当時の表記に基づく。

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。